

五戸総合病院での研修を終えて

大阪市立大学医学部附属病院
2年次研修医 矢野絵里奈

外科で10月に研修させて頂きました、大阪市立大学医学部附属病院初期臨床研修医二年目の矢野恵理奈と申します。

地域研修は私の勝手なイメージでは訪問診療や療養型の患者さんの入院管理がメインと思っていたのですが、五戸総合病院は周辺地域を支える総合病院だけあって、非常に多岐にわたる経験をすることができました。主な研修内容として、手術の助手、入院患者の管理、訪問診療への同行、健診センターでの画像読影、児童健康診断等がありました。いずれも、大阪の大学病院では経験することができないような幅広い内容で大変充実した日々を送ることができました。また、熟練の指導医の指導の下、普段大阪ではさせてもらえないような手技を多くさせて頂け、刺激的な日々を送れました。研修医が身に着けるべき外科の一般的な手技や入院管理についても勉強でき、実臨床に直ぐに実践できそうな内容を学びました。

地域研修を経て一番印象的だったのは、消化器外科の先生方が専門外の疾患も診ることができる点です。指導医である安藤先生、小林先生は消化器外科のエキスパートであるだけでなく、他分野の疾患に対しても幅広く知識と技術を習得されていました。大学病院では診療科が細かく細分化されており、どうしても自身の専門分野に特化してしまいがちなので、幅広く何でも自分で診るというスタンスに敬服いたしました。安藤先生が、「地域では〇〇科の専門医がどこにでもいるわけではない。専門医に診てもらうためにご高齢の方々が何時間もかけて遠方に通うのは大変なこと。だから何とか五戸でも診れるように日々勉強しているんだ」とおっしゃっていて、感動致しました。私も今後医師として研鑽を積む上で、患者さんにとって何がベストかを常に考えて行動をしていきたいと改めて思いました。

大阪でも地域医療の問題を耳にすることは多いのですが、実際に目の当たりにし、今後の日本の医療についても考えさせられました。慣れない土地に住んで働くことは不安もありましたが、貴重なひと月を過ごせ、青森研修を選択できてよかったです。安藤先生、小林先生、病院のスタッフの方々、ご多忙にもかかわらず懇切丁寧にご指導頂き本当に有難うございました。地域研修での経験を糧にして医師として成長できるよう精進致します。